

2010

3月

第15号



ウツディとよた

通信

WOODY TOYOTA COMMUNICATION



〈特集〉あいち森と緑づくり税で間伐が進む

関連記事は2〜3次

【発行日】平成22年3月25日
【発行】豊田森林組合
〒444-2424
豊田市足助町横枕3番地1
TEL 0565-61-1616
FAX 0565-61-1617
〈Eメール〉
soumu@woodytoyota.net
〈ホームページ〉
<http://www.woodytoyota.net/>

●表紙の人／高性能林業機械班の大久保、比企、和出さん(4頁で紹介)

間伐費用は全額、県が負担。森林所

あいち森と緑づくり税による間伐が進む。21年度は200^{ヘクタール}余

「山から街まで緑豊かな愛知をめざす」として、県は、平成21年度から「あいち森と緑づくり事業」を進めている。この事業は、①森林の整備(間伐の実施) ②里山林の整備 ③都市緑化 ④環境学習の推進が県内全域で展開されている。総事業費は10年間で220億円が見込まれ、そのうち、110億円が間伐の実施に投入される。これは、私たち県民が1人当たり年間500円を「あいち森と緑づくり税」(以下「新税」という)として納める大切なお金です。

今回は、豊田地域における間伐の実施に絞って、間伐の実施状況をはじめ、そのしくみ(Q&A)、森林所有者の感想などを紹介する。

(鈴木実句/記)

三分山町(旭地区)をはじめ 豊田管内で205^{ヘクタール}が施業

新税を使っての間伐は、県下全域で今年度から平成30年度までの10年間にわたり15,000^{ヘクタール}の人工林の間伐する予定。そのうち豊田地域は約30^{ヘクタール}の4,150^{ヘクタール}。今年度、実施する間伐面積は、205^{ヘクタール}となる。(地図を参照)。

施業は、全て豊田森林組合が請け負い、森林所有者に満足していただけるような施業に努めている。

来年度以降の間伐面積は、毎年410^{ヘクタール}が計画されている。森林所有者の負担なしの新税による間伐を利用して、あなたの山(人工林)の間伐を進めよう。

平成21年度あいち森と緑づくり税による



質問

Q わかりやすい 新税

Q 何ができるの?

A 林道等から遠いために採算性が悪い奥地の人工林や、交通量が多いなどのために作業性が悪い公道・河川沿い等の人工林の間伐を県が行う。

Q 山主の負担は?

A 県が間伐を行うので、森林所有者の負担は、不要となる。ただし、間伐を行う前に、20年間の転用禁止・皆伐禁止等の協定を県と締結することが必要となる。

Q 条件があるの?

A 《主な条件は》
1. 間伐率は原則40%
2. 林齢・樹種は、16~60年生のスギ・ヒノキ人工林であること
3. 保安林でないこと

Q 「森づくり団地」との関係は?

A 森づくり団地内の森林を優先して間伐する。

有者の負担は〇!

間伐実施状況 (平成22年3月10日現在)



稲武地区
約67ha

下山地区
約10ha

平成21年度あいち森と緑づくり税による間伐面積			
地区	間伐面積	施業地	間伐面積
旭	37.8	三分山町	7.22
		小渡町	13.93
		牛地町	16.65
足助	85.32	明川町	1.15
		四ツ松町	6.79
		東大見町	8.44
		大多賀町	61.9
		川面町	7.04
稲武	67.43	小田木町	30.15
		黒田町	7.76
		御所貝町	5.40
		大野瀬町	24.12
下山	9.56	神殿町	5.37
		羽布町	1.98
		立岩町	2.21
豊田	4.89	坂上町	4.89
合計	205		

平成22年3月10日現在、単位:ha

昨年10月、県下初となる新税による間伐が私たちの森林(三分山)で行われたことを大変、誇りに思っています。間伐を行った山は、所有者が下切町共有を含めて12人で、広さは7畝余でした。間伐作業は、豊田森林組合が行い、年末には予定のとおり終了しました。

今、間伐などを必要としている人工林が多くあると聞きます。間伐が進まない理由の一つに、材価が安いいため間伐費用を回収できない事があります。今回の間伐は、こうした課題をクリアー(森林所有者の負担ゼロ)されたことになり、大きな意義を感じます。同時に、山が明るくなり、改めて間伐の大切さを痛感しました。今後も新税による間伐を進めたいと思っています。

費用ゼロは魅力、
山が明るくなった。



大内恒治さん(下切地域森づくり会議代表)



森林がこんなに
変わります。



神殿町地内で実施された「あいち森と緑づくり税」による間伐の状況

による間伐 A 回答

Q 境がよくわからないんだけど……

A 各地域に設立された森づくり会議に参加し、皆さんで森林の境界を確認することができる。森づくり会議が設立されていない地域では、会議の設立を進めるが、未設立か設立が困難な場合は、森林組合か市森林課までお問い合わせください。

Q 人工林に竹が侵入しているんだけど……

A そのような場合は、侵入した竹を伐竹後、人工林の間伐を実施する。

Q 間伐率4割は多すぎない?

A 4割といっても劣勢木を中心に伐倒するので、材積率では30%以下になることが普通です。また、4割の間伐を行うことで、風倒木等の発生の恐れがある場合は、それを考慮して間伐を行う。

Q やってほしいけれど、問い合わせ先は?

A 豊田森林組合か豊田加茂農林水産事務所林務課(電話32-7361)にお問合せください。

表紙の

人物紹介

常に、どうしたらもっと効率よく、
きれいにできるかを考え、仕事に取り組む

●高性能林業機械班の大久保、比企、和出さん

今回ご紹介するのは、組合作業員(高性能林業機械班)の大久保正明さん(46歳)、比企秀幸さん(34歳)、和出麗資さん(36歳)です。大久保さんは、組合に入って23年のベテランで、高性能林業機械の担当は今年で3年目。比企さん、和出さんは、作業員として2年目。3人は、機械班として昨年4月から働いています。

まず、機械班になって思ったことを伺うと、意外に3人とも担当が決まった時は正直「えっ、嫌だ」と思ったとか。機械施業は、機械用の道を作り、効率良く搬出するために列状間伐で行うのが一般的です。長年、通常の林産事業を担当してきた大久保さんは、機械施業は山が荒れるというイメージがあり、始めは気が進まなかったと言います。確かに、一本一本の木を見て間伐、造材し、架線集材するという従来の方

法と比べると、機械施業は、きめ細かさには欠ける面はあります。しかし、従来の方



▲左から比企さん、大久保さん、和出さん

当然のこと。現場で作業にあたっている人達がそういった感性を持っていることに安心しました。

「最近、機械施業にも慣れ、逆に以前のそういった気持ちを忘れそうになってしまうので、その点は気をつけたい」と話す大久保さん。

寡黙な比企さんと和出さんは、「班長の大久保さんは、これまでの経験を生かし段取りよく作業を指示してくれること。また、グループのメンバーと積極的にコミュニケーションを取ることを心がけてくれているので働きやすい」と話してくれました。皆さんの顔を見ていてチームワークの良さがひしひしと伝わってきました。

最後に、今後の目標について問うと、「明確なものはないが、前よりも施業がスムーズにできるようになるとうれしい。どうしたらもっと効率よく、きれいにできるか考

え、よりよい仕事を心がけていきたい」と大久保さんは答えてくれました。目の前の仕事に一生懸命取り組んでいこうという姿勢はとても清々しく感じました。山を見れば仕事の出来ばえはわかってしまうもの。これからの機械班の活躍に期待したいと思います。

(中尾真季/記)

● 森林学校ニュース ●



セミプロ林業作業者育成講座

昨年10月4日から始まり、全15回講座が今年2月21日に終了しました。12名の参加者が人工林の間伐作業に必要な知識や技術を学びました。現場研修は、旭地区在住で長年林業に従事している松井金之助さんを主講師に迎え、伐倒・造材を繰り返す行い、最後には集材作業も行いました。初めは危なっかしかった皆さんも研修が終るころには見違えるように頼もしくなりました。参加者の方からは、毎回の研修が楽しくとても充実した講座だったとの声もいただきました。今後は、プロを目指す方、ボランティアとして関わりたいという方など様々ですが、今後の活躍を期待したいと思います!

(中尾真季/記)



◀チェーンソーを使っての間伐/月原町地内

▶講座修了生と指導スタッフが記念写真



支所の紹介

モッキー (木材需要促進センター)

豊田市黒田町南水別713
電話・FAX 82-2311



◀ 私たち5人が皆さんのご来店を待っています

元気な地域づくりを目指して地産地消に取り組む

モッキー(木材需要促進センター)。文字通り、木材の需要を高める目的で昭和62年、稲武町(現在は豊田市)が建設した。この施設の管理と運営は、施設完成と同時に当森林組合が担ってきた。木材産業の低迷の中でも、地域の農林産物を取り扱う事で地元の方々との交流を深めてきた。

モッキーは、中心市街地(市役所)から153号線を北に進み伊勢神トンネルを抜けて約4キロ、中電揚水発電所を越す位置の右側に立地する。白い建物「吟醸工房」が目印になる。近郷近在から年間約5万人の顧客が利用する。迎えるのは女性5人が毎日

(冬期は月曜休日)2名交代で、明るく和やかな場所を提供している。当組合が製作した木工品の直販を中心に、木地製品や木炭、春にはきのご類・たらの芽、秋には舞茸・自然薯などを販売。里山に立地する施設として自然を守り元気な地域づくりを目指して頑張っている。是非一度訪れてみて下さい。お待ちしております。

(伊藤由美/記)



2010年度参加者募集!

2010年度も森林に親しむ講座から、山主向けの講座まで各種講座を開催します! 皆様ぜひご参加ください。

山主森林経営講座

山についてちょっと勉強してみましょう!

- 日程/5月15日(土)~9月18日(土)《全8回》
- 内容/森林の仕組みと野生植物、間伐の必要性、原木きのご栽培、森林経営の心得、間伐体験、木材評価と市場見学、持ち山見学会など
- 定員/10名(定員を超えた場合は抽選)
- 参加費/8回分一括 8,000円(別途材料費)
- 申し込み締切/4月23日(金)

山主自力間伐講座

自分の山を間伐して補助金をもらいましょう!

- 日程/10月30日(土)31日(日)、11月13日(土)、14日(日)
- 内容/間伐研修3日間、豊田市の森づくりとまとめ
- 定員/10名(定員を超えた場合は抽選)
- 参加費/4回分一括 4,000円
- 申し込み締切/10月8日(金)

ご希望の方にはパンフレットをお送りしますので、お気軽にお問い合わせください。(0565-61-1618)

▼校庭に設置したテーブルとベンチは、生徒たちに大人気

く み あ
 豊田森林組合
 Hot News
 ホットニュース い



間伐材でテーブルとベンチづくりに 朝日丘中2・3年生がチャレンジ

森を守るために間伐は、必要不可欠な作業だ。より間伐を進めるための方策として間伐材の有効利用は、大きな課題となっている。

この「間伐材」の有効利用に取り組んでいるのが、市立朝日丘中学校。同中学校では、杉山先生の指導の下、2・3年生の選択技術「ものづくり」の時間を利用して、これまでにテーブル9台、ベンチ50脚などを製作した。製作したベンチやテーブルは、校庭に設置。時には、ベンチやテーブルを使っての屋外学習を行っている。子ども達は、生き生きとした表情で学習に励んでいる。

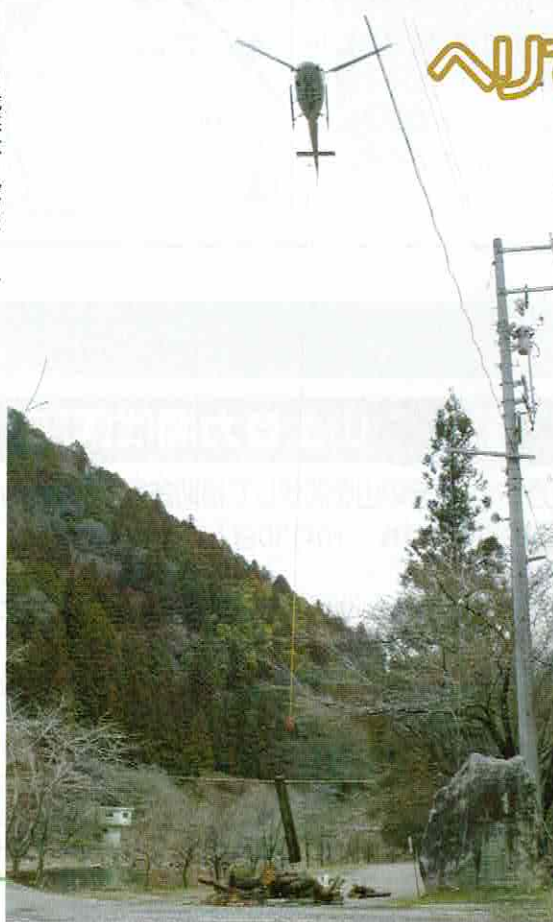
指導にあっている杉山先生は、間伐材を使っての木工について次のように話している。「木材の温かみを感じてほしいと思う。そして、既製品にはない手作りの良さを感じることで、ものを大切にする気持ちや、修理して長く使う気持ちを持ってほしいと日ごろから思っている。そのためには、自分の考えたものを作品にできる技術を身につけさせることが大切だと感じている。満足できる作品はいつまでも大切に使うことになる。また、日本の高い木工技術について興味を持つ生徒が一人でも多くなるとうれしい…」

(小澤明弘/記)

ヘリで香嵐溪内の伐採木を搬出

「より魅力のある香嵐溪にしよう」と平成19年度から飯盛山の間伐を市から受注して、豊田森林組合が行っている。今年は、スギ、ヒノキ約40本を伐採。中には樹齢120年の大木もあった。市は、今年の間伐木搬出にヘリコプターを使用することとなった。2月16日、ヘリによる搬出が行われ、40トンの伐採木を飯盛山から川見駐車場（香嵐溪内）までの間約400mを空輸した。

▶伐採木を搬出するヘリ



▶原木にシイタケ菌を打ち込む



豊田森林組合が消防団等地域活動表彰を受賞



▲消防庁長官からの表彰状を手にする中根組合長

豊田森林組合は、2月25日、ニッショーホール（東京）で開催された「全国消防団等地域活動表彰式」において消防団等地域活動表彰を受賞した。これは、当組合職員13人が豊田市消防団に入団し、地域の防災、防犯活動に積極的に参加し、成果を上げていることが認められたもの。表彰は、県下では当組合のみで、全国では33団体が受賞。受賞団体は、農協が15団体で最も多く、次いで株式会社が13団体、森林組合は、当組合のみであった。表彰状を受け取った中根組合長は「これからも、地域からの期待に応えられる組合を目指していく」と力強く話した。

▼親子25組は、ベンチづくりに取り組む



3月6日（土）にあいち海上の森センターでCOP10に関連したイベントが開催された。昨年10月に勉強会・間伐体験をし、今回はその材を一部使ってベンチの組み立てを行った。当森林組合では、今回の木工教室の指導と間伐材のベンチキット化等で協力した。当日は25組の親子が一生懸命ベンチを作成。完成したベンチはCOP10会場で使用される。その他、会議で使用する机も間伐材で作成中だ。

COP10関連イベント 海上の森で木工教室を開催

「自宅で美味しい“取れたてキノコ”を召し上がりませんか」として、豊田きのこ振興会が3月6日、足助農林センター広場で「原木キノコ菌打ち体験」を開催した。体験には、定員を上回る109人が応募。抽選の結果、市内はもとより犬山市、刈谷市などから40人が参加。

振興会会員が指導者となり、同会が昨年発行した

「原木キノコ栽培こよみ」をテキストに参加者たちは、1人当たりシイタケ原木3本、ヒラタケ原木2組にそれぞれの菌を打ち込んだ。「今秋から来春かけ各原木からどんなキノコができるか楽しみ。今日、学んだことを友達にも伝えたい…」と話しながら菌打ち体験を満喫した。

シイタケ、ヒラタケなど 原木キノコ菌打ち体験に40人が参加



▲ヒラタケ原木づくりに取り組む



組合員へのお知らせ

理事会・監事から報告

高性能林業機械の導入など 6議案を承認

平成22年1月～3月10日の間に開催された理事会は2回で、主な内容は、次のとおり。

【第8回】1月22日、本所会議室で開催

- ①平成22年3月31日で山林貸借使用契約(分収林)の契約期間が満了となるため、平成52年3月末日まで契約を延長する。山林は、市内黒田町地内で4㌔余。契約者は、福田恵一さん(日進市)。
- ②低コスト林業を目指して、昨年に引き続き、高性能林業機械(プロセッサ2台、スイングヤーダ1台、フォワーダ2台)の導入が決定された。導入金額は、7,200万円。資金は、国、市の補助金が約5,800万円、自己資金が1,400万円余を見込んだ。導入後における当組合が保有する機械は、スイングヤーダが2台、プロセッサ、フォワーダが各3台となった。
- ③パソコン、グラブローダーなどの固定資産が老朽化などによって処分することとなった。株式会社ほろくすの株券の処分も決まった。
- ④監事による定期監査の報告を始め8件が報告された。

▶高性能林業機械による施業を視察/立岩町



第9回理事会の様子

【第9回】2月24日、市下山交流館で開催

- ①現在、策定中の中期経営計画に対する協議を行い、様々な提案、意見があった。今後、これらの意見、提案を元に計画をまとめ、6月開催予定の総代会に提案する予定です。決定した計画は、本ウディ通信を通して皆さんに紹介する。
- ②平成21年度決算見込みほか1件が報告された。
- ③理事、監事は高性能林業機械による施業/立岩町(下山地区)と森と緑づくり税による施業/神殿町(下山地区)の現場を視察した。

▶あいち森と緑づくり税による間伐状況を視察/神殿町



編集後記



当組合の職員数(作業員、パートを除く)は、3月10日現在、48人。この内、2人が今年3月末日で定年退職となる。退職者の補充と新しい業務に対応するため22年度に向けて新しい職員を募集。この程、新規採用者3人を決定した。内訳は女性2人(深谷、岡本)、男性1人(西川)で、新規採用は、一昨年以来である。リーマンショック以降、大変厳しい雇用情勢の中で採用となった3人に祝意を贈る。組合が担う森林整備の促進に新規職員の活躍が期待される。(伊藤喜代司/記)

お願い

豊田森林組合の組合員の皆さんで、住所の変更や相続などで土地所有者名義等に変更があった場合には、変更届けを90日以内に提出して下さい。お願いします。

【お問合せ/提出先】
豊田森林組合総務課
〒444-2424
豊田市足助町横枕3番地1
TEL 0565-61-1616
FAX 0565-61-1617

